

# [COMMUNION]

WEB:<http://www.nskk.org/tokyo/index.html>  
E-mail:comm.tko@nskk.org  
PHONE:03-3433-0987  
FAX:03-3433-8678  
Diocese Office



第74号

(通巻1309号)

2025年11月2日

編集：広報委員会

委員長：藤井美佐子

日本聖公会東京教区

港区芝公園 3-6-18

## 北関東教区・東京教区合同礼拝 & 第2回新教区設立ミーティング

9月15日(月・休) 立教学院タツカーホールにおいて北関東教区・東京教区両教区主催の合同礼拝が高橋宏幸主教司式、西原廉太中部教区主教(立教学院院长・立教大学総長) 説教により開催された。

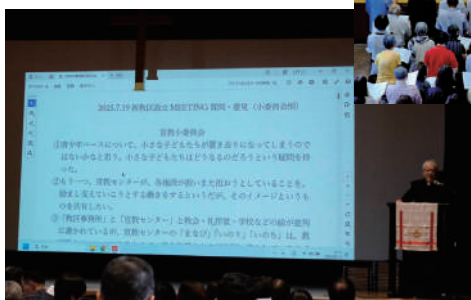
新教区設立のための準備会が開催される中、合同礼拝は繰り返し検討されたが、コロナ禍や両教区の日程の都合などで開催できなかったこともあり、今回念願かなっての開催であった。当日は両教区合同聖歌隊「アウデアムス」や子ども聖歌隊がアンセムを捧げ、約550名の参加者が共に聖餐を祝った。

西原主教はヨハネ福音書17章1節〜26節の「大祭司の祈り」をもとに説教をされた。その中で①11節「私



たちのように、彼らも一つとなるためです」とのイエスのとりなしは弟子たちを

通して主イエスの言葉聞く私たち全員も含まれること。弟子たちの宣教がなければ私たちが共に祈ることはなかったし私たちもまた主イエスの言葉を継承していく、すなわち「使徒継承」の担い手であるということ。



②24節「父よ、私に与えてくださった人々を、私のいる所に、共にいるようにしてください」との主イエスの祈りを通して小さく弱くされた人々の声を聴くコミュニケーションを作り上げてほしい。③「宣教」とは実はいない人の声となること。困難や絶望にもかかわらず神の祝福を語り続けること。④「〜にもかかわらず」語り続けることだ。異なる教会教区のそれぞれ物語が持ち寄られて一つになっていく。て欲しいと参加者を励ました。

礼拝後は「新教区設立ミーティング」が開催された。今回は前回(7月19日)において出された参

加者からの質問に宣教協働委員会から回答する形で行われた。前回、多くの問いかけがあった新しく設置される「宣教センター」の位置づけについては宣教の主体的な担い手である各教会の働きを下支えしていくのが目的であることとされた。また、財政においては北関東教区の知見を参考にしながら収益事業を確立していきたいとの回答があった。そして新教区の名称については「東日本教区 the Diocese of East Japan」としたいとのことであった。

最後に北関東教区・東京教区宣教協働委員会委員長の鈴木伸明司祭が、「新教区設立によって、共に祈り、共に力を出す人が増える。多くの祈りと多くの喜びとともに新教区を作り出す。力を結集して未来へと進んでいきたい」と結んだ。

(司祭須賀義和)

## 東京教区が北関東教区と新設しようとしている 「新しい教区」が大切にしていけるもの・こと（2）

司祭ニコラス中川英樹

北関東教区・東京教区宣教協働特別委員会副委員長

東京教区常置委員長

**いよいよ今月、私たちは、北関東教区と共に、  
「新しい教区」を設立するか、設立しないかを決めます。**

11 月 22 日（土）に開催予定の、東京教区第 147（定期）教区会において、私たち東京教区は北関東教区と共に新しい教区を設立するか、否かを決める、とても大きな決断をします。実際に表決に加わるのは、教区会に出席される教役者議員、信徒代議員の方々になりますが、しかし、この決断には、東京教区に連なる誰一人として無関係な方は居られません。なぜなら、その新しい教区は、「私たちの教区」となるからです。どうぞ日々の祈りの内に、この教区会のためにお祈りください。私たちがどのような選択をしても、一致を保ちつつ、そこに神の「義」があることを信じ、歩き続けることのできる私たちで在りたいと願います。

### ■「52」の質問と意見に感謝

7 月 19 日に開催された新教区設立ミーティングでは、その後にお寄せいただいた分も含め、実に「52」にも及ぶご質問とご意見が寄せられました。ご意見の中には、新教区設立の可否を決断するための判断材料が乏しい、新教区の Vision が見えないなどの厳しいご指摘もありました。また新教区の名称についても多くのご意見とご要望がありました。これらのご質問とご意見については、すべてに対してではありませんでしたが、9 月 15 日に開催された、第 2 回目となる新教区設立ミーティングで回答させていただきました。

### ◆新教区の Vision について（メリット）

新教区の Vision は、極めてシンプルです。私たちは、新たな教区において、日本聖公会の宣教を強化するために一緒になります。2022 年に開催されたランベス会議において提示された「ランベス・コール」の中に、「教会は、神の宣教を識別し、神の宣教に参加することにおいて、その命を輝かせる。」とあります。教会は神の働きに遣わされることにおいてのみ教会となります。そして、キリスト教会、とくに全聖公会が識別した神の宣教が、「聖公会の宣教の 5 指標」と呼ばれるものです。

- i. 神の国の良き知らせを宣言すること
- ii. 新しい信徒を教え、洗礼を授け、養うこと
- iii. 愛の奉仕によって人々の必要に応答すること
- iv. 社会の不正な構造を改革し、あらゆる暴力に反対し、平和と和解を追求すること
- v. 被造物の本来の姿を守り、地球の生命を維持・再生するために努力すること

この 5 指標そのものが、新しい教区の Vision であり、軸となります。これらの指標を各々の教会が遣わされた場で出会う人びとに丁寧に、そして誠実に寄り添いつつ、神からの助けを得ながら、より具体的に協働して実践していくことが、北関東教区と東京教区が一つに成ることの目的です。

### ◆新教区の名称について

新教区の名称として「日本聖公会東日本教区」が提案されました。旧教区名を残さない、この名称には、共に新しくされて歩み出す、という明確な意思が込められています。加えて、将来の日本聖公会の教区再編をも視野に入れての名称となっています。また、新教区の主教座は、東京教区の聖アンデレ教会に置かれることになります。さらに、新教区の教区事務所は、担うべき業務別に、主たる事務所を現東京教区事務所に従たる事務所を現北関

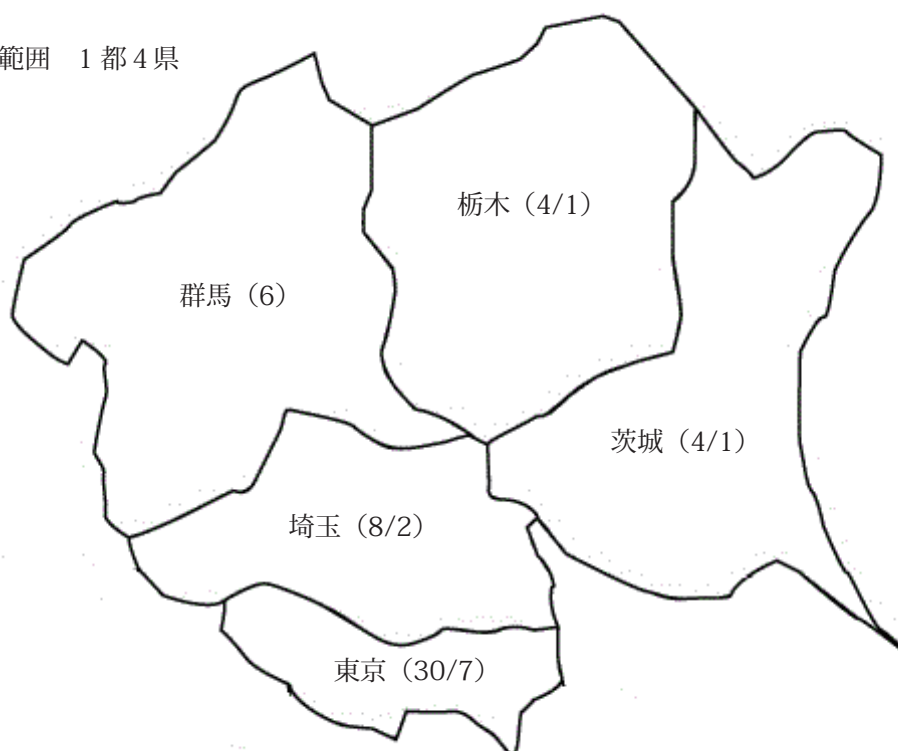
東教区教務所に置くこととします。

### ◆新教区設立可決後の歩みについて

今秋の両教区の教区会において、3/4 の賛成をもって、新教区の設立が可決された場合、その後の歩みについて、今の教区の枠組みはどう変わるのか、委員会活動などはどうなるのか、といったご質問がありました。結論を言えば、新教区の設立可決と同時に新しい教区の歩みが始まるわけではありません。新しい教区の宣教的な協働の歩みを始めるためには「施行規則」が必要になります。その整備については、新教区の根幹に関わるものですから、今も慎重に協議が重ねられており、2026 年 4 月に予定されている、新教区の第 1 回目の教区会までには、その準備を終えたいとは考えています。とはいえ、そこから、急に何かが変わるということではなく、しばらくは両教区の制度や仕組みを、実体的に「新・施行規則」に符合させていく時期が必要になります。大切なことですので、議論の進捗によっては、それ以降にずれ込む場合もあります。

### ■「日本聖公会東日本教区」の概要（2023 年末日本聖公会統計表より）

■宣教の範囲 1 都 4 県



※（教会数 / 礼拝堂数）

- 教会数： 52 教会 11 礼拝堂
- 現在信徒数： 7,895 名
- 教役者数： 42 名（退職教役者除く）

### ◆新教区の課題（デメリット）

財政面では、教役者の給与の安定化、支出超過の解消。司牧面では、教区主教の司牧範囲の拡大に伴い、公式巡回 / 巡杖が 1 年に 1 回から 1.5 年に 1 回程度になってしまうこと。また、信徒が守る礼拝が増える可能性が今以上にあります。これらのデメリットをどう「豊かさ」に変革できるか、が課題かと考えます。

### ■今日から毎日、お祈りください。

新しい教区を設立するか、否かという判断には、多くの方々の祈りが必要になります。これから先、私たちは共に日々祈りつつ、神のみ心が示されることを静かに待つことになります。どうぞお祈りください。



## 夏のキャンプ特集

## 中高生世代キャンプ

安心・安全な場づくりを目指して  
チャプレン 司祭 荻原 充

8月18日（月）から21日（木）まで、長野県湯ノ丸高原のシャローム・ロッジにて、今年も

無事にキャンプを行うことができました。このキャンプのため、いつもご支援、お祈りくださいます各教会・礼拝堂のみなさま、教役者のみなさま、そして美味



しいお食事をご用意いただいたシャローム・ロッジのスタッフのみなさまに感謝申し上げます。

今回わたしは個人的な課題として、「キャンプという場において、いかに『安心・安全な空間』を共につくっていくことができるか」ということを念頭に置いて臨みました。過度の競争社会において他者より優れている者であることを求められるストレスフルな日常から離れ、キャンプに参加するすべての者が、互いのことを気にかかけ合いながら、安心感の持て

る関わりをどのようにしたら持てるか、ということを意識しながらキャンプを過ごしました。

キャンプに参加したすべての者が、キャンプを通して「今のままの自分で大丈夫なのだ」と安心感を抱き、キャンプが終わって離れても互いのことを思い、また次回以降に戻ってこられる、安心・安全な場づくりを今後も継続していけることを望んでいます。

## スタッフ

須賀 瞳

主の平和がありますように。

今回の中高生世代キャンプのテーマは「なぜかここにいる」です。キャンプに集った私たちは、3泊4日を通して、相手のことを知り、自分のことを知っていきま

す。偶然のような出会いは、人によっ

ては何か意味のある出来事なのだと思います。例えば、このキャンプが

学校以外の友達ができた場になった

子もいるかもしれません。

一人ひとりが感じ取った、「ここに

にいる」ことの意味は、参加した人

の数だけあるのだと思います。キャンパーたちが中高生世代会というコミュニティに、心理的な安全を感じることができていたら嬉しいですし、

キャンプ準備会としても、会に集う

すべての人が安心して過ごすための歩みを止めずにいたいと思います。

未筆ですが、ご尽力くださいました、保護者の皆様、シャローム・ロッジの方々、チャプレンの方々、スタッフの皆様、お忙しい中お越しくくださった主教さま、ありがとうございました。

## 東京諸聖徒教会

井出 直宏

中高生キャンプでは、新たな発見や経験を積むことができた。特に分かち合いでは、様々なテーマで話し合い、よりお互いのことを知ることができた。聖書研究

ではあまり考えない

ような、少し難しい

テーマで話し合うこ

とができた。聖書を

読むことはあつても、

いつもは考えないよ

うな視点で捉えるこ

とができて、とても

勉強になった。自由

時間にはカードゲー

ムをした。周りの人

と話し合って結論を

出すゲームも行った

ため、より親しくなることができた。

トレッキングでの花探しでは、みんな

で協力し合ってたくさん見つける

ことができた。水遊びでは普段やら



ないような水風船ドッジボールや水鉄砲遊びなどをして、チームの仲間と作戦を立てて楽しく遊ぶことがで

きた。学校などでは体験できないことを、4日間を通してやることでできた。これらが楽しくできたのは、スタッフだけでなく、キャンパー一人ひとりの全力で楽しむという気持ちがあつたからかもしれない。

## 葛飾茨十字教会

矢崎 梨紗

今回初めて中高生キャンプに参加させていただきました。キャンプから

帰ってきた際一番最初に感

じた事は、元の自分に戻れ

たことです。というのは、

私が通っている高校のクラ

スにまだ馴染めていなく、

誰とも会話せずに帰って

くる事が多く、少し心が閉

しぎみになっていました。

そんな中、「中高生キャン

プ」に参加しないか、とい

う話を聞いた際、「正直行

きたくないな。キャンプ嫌

いだしな」と悩んでいまし

たが、実際参加してみると

自分が人見知りだと感じないくらい4

日間とても楽しく、自然と心が解放

されていたことに気が付き自分でも驚

いています。また、キャンプでの自由時

間にキャンパー、スタッフの皆さんと話したり、企画を通して会話を通して繋がる関係性が生まれることに気が付き、人と会話をする事が以前よりも楽しくなりました。年齢、価値観などが違う方と会話をする機会は<sup>それほど</sup>然程ないと感じます。自分という存在を知ることができた今回のキャンプにとっても感謝しています。

## おがさわらの旅 2025

### 2025 年小笠原の旅

チャブレン 執事 藤田 美土里

今年の旅は船の運航都合により、例年の 9 月ではなく 8 月の 15 日（金）21 日（木）という日程で実施いたしました。小笠原聖ジョージ教会のある小笠原諸島父島は、東京竹芝桟橋から 1000 キロ離れた太平洋上の島々のひとつです。「世界自然遺産」に登録された自然豊かなこの島は、東京都に属しているながら交通手段は「おがさわら丸」の 24 時間に及ぶ航路のみ。「無人島（ぶにんじま）・ボニン（Bonin Islands）」と呼ばれるこの島々に最初に人が定住したのは 1830 年、欧米人でした。そして、小笠原聖ジョージ教会の歴史もこの方々から始まっています。ここは亜熱帯性気候の自然豊かな島です

が、戦後アメリカの占領下に置かれ、1968 年に日本に返還されるという歴史を持ちます。そのため今も戦争遺跡が数多く点在しています。戦後 80 年という節目に拘らず、ここでは森や浜辺から一歩茂みに足を踏み入れると至る所に戦争遺跡があり、青年たちは肌で歴史を感じる経験をします。今年も教区を越えた参加者総勢 16 名での旅となりました。皆さまのお祈りとお支えに心から感謝申し上げます。

### 小笠原でいただいたもの

北関東教区 土浦聖バルナバ教会

中谷 忍

皆さまに豊かな平安がありますように。

私は今回の旅の中で、生きることと死ぬことを何度も考えました。それは、私が考えようと意識したのではなく、自然と考えさせられたという方が正しいのかもしれない。

小笠原には南国の生きた自然が溢れています。一方で、小笠原には今もなお、戦争や痛みが残っています。私は、この旅の中で、幾度も生きている喜びと、誰かを、何かを失くした悲しみを前にしました。その度、他者の酸いも甘いも<sup>な</sup>緬い交ぜに噛み分けた経験に、思いを馳せる

ことしか私にはできませんでした。そして、しばしばそれを受け止め続けることが難しく感じられました。現実を知る度、何度も自分一人の力では何もできないことを痛感させられたからです。しかし、それと同時に



に自分の無力さをあつて良いものと思えるようになりました。それは、私が弱ければ弱いほど、私に寄り添ってくれるひとの、仲間の強さを知ることができたからです。これは、もしかすると私の中で、死んだとされていたものが生かされたということなのかもしれません。旅を終えた今、

いただいたものに感謝をしつつ、もう一度歩みださせていただきたいと思います。恵みのうちに。

東京教区 三光教会 穂積 香菜

今回が私にとって初めての小笠原への旅でした。船に乗って 24 時間、決して短くはない時間を経てたどり着いたのは、絵に描いたような「南の島」で、目に映る全てのものが私にとって新しいものでした。そこには今まで見た中で一番綺麗な青い海があり、シュノーケルをつけてサンゴ礁と色とりどりの魚たちを見たり、イルカと一緒に泳いだ体験はとても貴重なものとなりました。また、南島へ上陸した際にはサンゴでできた砂浜やそこに残されているウミガメの赤ちゃんの足跡を見ることができました。自然や生き物と近くでふれあい、海の生き物たちの環境を守ることの大切さを実感することができました。

また、聖ジョージ教会では小笠原の方々とともに聖餐式の時間を持つことができました。その後に小笠原愛作先生の奥様であるみえこさんからお話しを伺いました。小笠原という限られた土地、人間関係の中で生きていくことの現実的な苦勞を知り、周りを取り巻く環境が変わっていつ



でもそれに向かつていく強さを感じることができました。

今回の旅では、たくさんの人生初めてを経験しました。大自然や歴史をたくさん感じ、私は神様が造られたこの世界のほんの一部しか知らなかったんだ、色んな世界を知りたい、そう思える旅となりました。

美しさの隣にある記憶と平和の祈り  
東京教区 聖マーガレット教会

堀切 愛海

小笠原には私たちの想像する美しさを易々と超える神様の創造の神秘で満ち溢れています。透き通る青い海、地平線に沈んではまた昇る太陽、小笠原にしか生息しない動物たち。何度見ても圧倒される美しさの真横に、あの島で戦争によって多くの人が闘った跡がそのまま残されています。私は小笠原で夕陽を見る度に美しさに感動しながらも、当時の人々は空を見てどんな気持ちだったのか、そして今私が享受している平和について考えさせられました。聖ジョージ教会は、「Chapel of Peace」という名の通り、平和の祈りが特に込められた教会だと改めて思いました。平和とは、分裂を繰り返すこの世の中で、人々が手を取り、互いを思いやることで生まれることなのだと思います。



ます。そしてそれはまた、自身の心の中にもあるものでもあります。小笠原の旅で仲間と触れ合い、喜びも悲しみもみんなで分かち合うことが出来るのは、この旅ならではの思ひます。共に感情を共有出来る仲間がいることは、なんとも喜ばしいことです。そしてそれは、今私たちが日々命を脅かされることがなく生きていけるから、成り立つことでもあります。どうか今後も小笠原という地が守られ、小笠原に住む人々、また、その地を訪れる人たちにも平和がありますように。人生の糧になる学びの機会を与えてくださる小笠原の旅を支えてくださる皆様に感謝いたします。

## 教会談話室

テーマ 戦後80年に想いを寄せて

### 聖アンデレ教会

聖アンデレ教会では、コロナ禍以降、日曜礼拝や行事への出席者が減少していることを受け、「礼拝出席に関するアンケート」を実施しています。これは、今後の礼拝や教会活動のあり方を見直すきっかけとし、信徒の皆さまの現状やお気持ち、礼拝への思いを伺うことで、誰もが安心して参加できる教会を目指すためのものです。アンケートは今後も継続的に行う予定です。

### 真光教会

松田 正人

戦後生まれの私は平和の中にのどかに生きてきましたが、真光教会の歴史を紐解くと、災害や戦争の影響を受け続けてきたことがわかります。それでも屈せず信仰の歴史をつないできた先人を讃えます。一方、創造の時に「よし」と言われた「創造主」の期待を裏切つて地球を汚し壊し、他者を貶めてきた、そんな人間の将来にも聖霊の導きがありますように。広島、長崎、敗戦の日にも今年も平和を祈念して打鐘しました。

### 東京聖マリア教会

岩浅 紀久

戦後18年、就職して住居から近く

の東京聖三一教会に移りました。

教会には若者も多く、皆仲良く、楽しい教会生活を送っていました。ある日、礼拝の後、秋山司祭から若者は集まれと言われ、集まった30人程に、「いい若者がこの大教会に住住していいのか？ 教区には君達を必要としている教会が色々ある」私が東京聖マリア教会に移った背景です。

### 大森聖アグネス教会

齊藤 響子

今年は創立105周年。100周年はコロナ禍のため集うことを断念しましたが、今年は聖霊降臨日・創立記念日を共に祝いました。祝会では、105年の歴史の一部を重鎮のお二人から。お一人には、かつて「戦時中の体験を伺う会」でもお話いただいたおり、その時のことも話題にご本人の口から生の体験を聴くことの大切さを、改めて思います

### 聖パウロ教会

毎年恒例の「平和の鐘」が今年も広島・長崎の原爆投下時刻と、敗戦記念日の正午に鳴らされました。礼拝堂で短く平和の祈りを献げた後、鐘の下に集まり、灼熱の中でその時を待ちます。80年前、一瞬にして取り去られた命と苦渋に満ちた人々の生活。また今も繰り返される戦争。それらを覚え、今年

も平和を願いながら近隣の方と共に 40 回の鐘を打ちました。これからも教会内外に参加を呼びかけ、この打鐘を続けます。

### 目白聖公会

目白聖公会の聖堂には聖シプリアンの名が冠せられている。聖シプリアンは 3 世紀のカルタゴの主教で、テキウス帝によるキリスト教弾圧に耐えながら信徒を導かれた。迫害によつて教会を離れてしまった人々の復帰に奔走され、「神は唯一、キリストは一人、教会も信仰も一つ」との言葉を遺された。私たちも聖シプリアンの精神を継承し平和の器として歩みたい。

### 東京諸聖徒教会

時澤 栄一

私たちの教会には、80 年前の昭和 20 年、東京大空襲で焼け落ちてしまった礼拝堂が描かれた大きな油絵があります。蒲生栄一画伯から寄贈されたもので、文部大臣賞をいただいた大作です。上野の美術館に教会の青年部と連れ立って見に行つたものです。

昭和 30 年、戦前の建物の基礎をそのまま用いて礼拝堂や会館等が再建されました。再開した幼稚園も盛況でこどもの声が絶えない教会として皆様にも可愛がっていただきましたが老朽化には逆らえず 4 年前に立て

直し「諸聖徒こどもの家」として再出発しました。

私はこの地に教会が立った昭和 6 年 1 月 1 日にこの近くで生まれました。以来この教会と共に歩み、今も主日礼拝の聖書朗読でご奉仕させていただいています。



### 東京聖テモテ教会

佐藤 良徳

『東京教区設立 100 周年記念誌』を現在作成中です。戦時中は、度重なる空襲で、多くの教会（聖テモテ教会も全焼）や関連施設が焼失しました。日本聖公会の組織も解体に追い込まれました。また憲兵隊が聖職者を拘束しています。この傷は深く、戦後の再建は厳しいものでした。近日常に発行予定です。苦難の道のりを振り返ってみてください。

### 神田キリスト教会

昭和 20 年（1945 年）3 月 9 日夜、東京下町上空に米軍の爆撃機が飛来し

焼夷弾を降らせました。当教会の聖堂・会館・牧師館も焼夷弾の直撃を受け、会館・牧師館は消滅し、聖堂は外壁を残し焼け落ちてしまいました。牧師、信徒は落胆・絶望の淵に落とされました。それから 80 年、教会は神様の恵みと牧師、信徒の努力で復興しました。感謝です。しかし、また争いがいつ起きてもおかしくない状況が続いております。戦いの無い、平和な世界が来るよう強く感じる年であります。

### 聖救主教会

宮本 恭子

人類の歴史は、戦いの歴史であり戦争を止めることは、人類の永遠の課題であるようにも思う。子どもも大人も育つ場にいるキッズスクールの職員の研修として映画「黒川の女たち」を観に行つた。戦争体験は、口に出したくない、思い出したくない体験。その体験を口に出し、人と共有した時に、新しい何かが生まれ癒しが生まれ、救いが生まれる。簡単な道のりではない、人と人との関係、寄り添う、聞く、話す、受け止める過程があつて、癒しと救いが得られることを思う。主に感謝します。

### 神愛教会

鈴木 裕子

「うつくしき旭哉八月十五日」我が教会から徒歩圏に庵がある正岡子規の句である。戦後 80 年、還暦の私は地続きで戦争を感じる最後の世代か

もしれない。父方の祖父は当時 20 代、公安警察の赤狩りで獄中死した。これは私の話でも、私たち一人一人に戦禍を知る血縁がいて、この尊い平和がある。美しい明日が続くよう、すべきことを今こそ。

### 葛飾茨十字教会

今年の復活祭は植栽班で育てた白ゆりを礼拝でおさげしました。主に感謝いたします。

教会の門から玄関までのプランター数鉢に季節の花を植えています。猛暑のなか比較的涼しかった夕の礼拝前に、アメリカンブルー、千日紅、ルドベキアの花を植えました。夫々ブルー、ピンク、黄色です。神様の御言葉とともに花々から元気をいただいています。

### 聖ルカ礼拝堂

7 月 20 日に洗礼式が行われ 5 名が新たに聖ルカ礼拝堂の霊的家族に加わりました。翌週 27 日は主教巡回日で堅信式が行われ、他教派からの転籍の方も含め 6 名が堅信の恵みに与りました。平日「朝の礼拝」や水曜日 13 時の「聖ルカ礼拝」に職員や一般の方も参加され、神様の愛が波紋のように広がっています。聖霊の働きに感謝です。

### 東京聖三一教会

9 月 14 日は、礼拝後に敬老の集い



を持ち、ホールで信仰と人生の先輩の方々と食事のひと時を持ちました。敬老新人（75歳）の方々と大先輩の方からお言葉を頂き、恵み豊かな交わりの時でした。今年は、10月最終主日に行っていたバザーを、11月16日に変更します。販売中心から交わり中心のバザーにする予定です。

#### 東京聖十字教会 加納 美津子

東京聖十字教会では、今まで4名の方から直接又は間接的に戦争体験を書き留めて共有してきました。私達の何気ない生活が他国の子供達を苦しめることがないように、戦争の被害だけでなく、加害の認識を忘れず、戦後の苦しみも覚えることができますように！御心であれば、祈りが言葉になり、行動になる日が来ますように心から祈ります。

#### 聖愛教会

毎年8月15日の正午に鐘を打ち鳴らし、「平和の鐘と祈り」の礼拝を捧げています。そして8月15日に近い主日にはすいとんを皆でいただき、戦争を体験された信徒の方のお話を聴いていました。戦後生まれの私達が作った物ですから「こんなに美味しい物ではなかったのよ」などと言われながら。しかしコロナ禍の間に何人も天国へ召され、また中々教会へはおおいでになれない方が増えてしま

いました。先輩の信徒の方々の信仰を受け継いで共に神様の愛を伝えることが出来る様な教会生活を守っていききたいと思っています。

#### 阿佐ヶ谷聖ペテロ教会 江川 栄一

両親は青春を戦時下で過ごした。父は生命保険会社から軍需産業に転籍、香川県豊浜で軍務についた。母は女学生時代に被服廠で勤労奉仕した。彼らから戦争について詳しく聞くことはなかった。しかし、後に私が専門学校で日本国憲法の授業をしていることを知った教会の先輩信徒から、ぜひ平和の大切さを若い学生に伝えて欲しいと訴えられたことを思い出す。

#### インマヌエル新生教会

8月10日の主日聖餐式を「平和を祈る日」として守りました。礼拝中に「沖繩と聖公会」をテーマにして鈴木慰さん（小金井聖公会）よりお話を伺い、安次嶺佳子さん（三光教会）の三線演奏に合わせて沖繩の歌を歌い、2025年沖繩の旅の写真が展示されました。また、この日の献金はパレスチナ子ども支援のためにさげられました。

#### 立教学院諸聖徒礼拝堂 菅 鼓二郎

今夏、私は広島を訪問し、原爆ドームを訪れました。ここには名前の残っていない人々が多く記念されています。

す。キリスト教において、ときに名前存在を表すと言われることがありますが、この人たちは原爆投下という人の罪により存在しない者とされてしまいました。神様が愛された人々の命と尊厳が奪われてはなりません。確かに存在した名前の残っていない人々と出会うことで、私たちの祈りと行動は変えられていくのではないのでしょうか。

#### 清瀬聖母教会

大戦終結80年。その後も、世界では銃火が響き、今なお戦火の絶えない中、80年。直接的には一切兵器を使用しなかった日本。その努力、姿勢は誇るべきことかと思えます。

日々変わる世界情勢の中、年々防衛費が増加、軍事力も強化され、集団的自衛権も容認された今、兵器を使用せず、平和を堅持する事は、これまで以上に自制と賢明さが必要になると思います。

他人事ではなく、自分事として。

#### 聖パトリック教会 浅川 尚子

戦後80年経った今も、当時の苦しみを語れずにいる人達、補償を求めている人達には、未だに戦争は終わっていません。多くの人が無一文の状態から必死で戦後の復興に努力し、今やあまりにも急速な進歩に追いつけないほどですが、戦争は無くなつて

おらず、地球は温暖化で異常気象を呈しています。今こそ、神様と信仰の必要性をひしひしと感じます。

#### 聖マルコ教会 高崎 健一

沖繩慰霊の日にちなみ、6月22日の礼拝後、沖繩戦を生き延びたハンセン病療養所・愛楽園の入園者の証言を基にした朗読劇の動画を視聴しました（写真展『命の記憶―沖繩愛楽園1975』のオープニングイベントで演じられました）。

沖繩戦の凄惨さと、そのさなかでも人間としての尊厳を失わなかった愛楽園の方々の言葉は、重い問いかけでした。

#### 小金井聖公会

戦後80年を迎えた今にあっても、なお戦争や紛争が世界各地で起こり、私たちは改めて「命」「人間の尊厳」「平和」を守りぬく使命が問われている。イエスは「平和を実現する人々は、幸いである」と私たちを招いておられる。小金井聖公会では10月に、「いのちの尊厳」というテーマで、関正勝司祭を講師として、講演会を行った。



#### 次回クリスマス号

12月21日 発行予定